

UP!

香川大学創造工学部 広報誌「アップ!」

【アップ!】

Number

01

香川大学
創造工学部

KAGAWA UNIVERSITY
Faculty of Engineering and Design

★創刊号

2025年9月発刊

創造とは？

香川大学創造工学部の学部長は、2025年10月1日
現学部長の末永慶寛(2019年10月1日～、建築・都市環境コー

から吉田秀典(建築・都市環境コース教授)が就任。
ス教授)との対談を通じ、学部の未来ビジョンについて語ります。

ボクシングのパンチ「左フック」と台風の軌道は
密接な関係があります。講義でよく話します。

創造とは、発見に始まり、
工夫を経て、新たな価値を生み、
人々の暮らしを豊かにするモノ。

現学部長 末永慶寛

2018年に工学部を改組して、
創造工学部を創設しました。
工学部という組織に変化を求め、中心に立って
頑張っていたのが吉田先生。
当時を思い出すとまさに「盟友」。

研究科長は10月からも務め、
微力ながら学部のサポートも続けます。
さて私が学部長になって、
関係者の理解を得ながら
「和を以て貴しとなす」という
現場の空気感を作ってきたつもりです。
その部分は引き継いでほしいです。

もう1つあります。
この研究なら香川大学創造工学部という、
誰が聞いても同じ答えが返ってくる、
全国から受験生が集まる人気の学部にな
ってほしいと期待しています。

最後に、学生のみなさんへ
メッセージをください。

対談日：2025年8月25日林町キャンパスにて

創造とは、夢を共有し、
未来を共創する
対話である。

次期学部長 吉田秀典
(2025年10月1日 就任予定)

私と末永先生との出会いは、
香川大学に赴任した1999年4月からです。
同じ学科(当時は安全システム建設工学科)の
同僚になります。今年で27年目。
同期の先生は私たちを含め4人だけになりました。

それを言われるのなら、
2022年の大学院創発科学研究科を
発足させたのは末永先生。
このときも大変だったと思います。

そうですね。私のテーマは「充実・深化」としました。
今の教育も、研究も、運営も、社会貢献も、
末永先生が土台を作られました。
今後は、それらを充実・深化させていく
必要があると思っています。
敢えて「進化」ではなく、「深化」と考えます。

外から見た学部の姿は末永先生の言われる通りです。
さらに学内にも目を向け、学生さん、職員さん、先生方にとって
満足度の高い学部にできたらと考えています。

在学中に、「共感」できるアイデアを考え、
アイデアを実行するため「手法／解決策」を
「創造」し、それを「形」にした上で、「実践」できる能力を
ぜひ身につけてください。
このプロセスでは「右ならえ」ではなく、
畏れることなく個性を発揮することを期待しています。

コンピュータが1台あれば研究はできますから、
ラボにこもって数値解析をしています。

すえながよしひろ◎1993年日本大学大学院
理工学研究科博士後期課程海洋建築工
学専攻修了。2009年香川大学工学部教
授、2019年創造工学部長、2022年香川
大学大学院創発科学研究科長を兼務。大学
時代まで水泳、ボクシングをし、造詣が深い。
国内はもとより海外のボクシングの試合映
像を収集、実家に6部屋、8万本を超える。

よしだひでのり◎1995年東京大学大学院
工学系研究科土木工学専攻博士課程修了。
2005年香川大学工学部教授、2023年香
川大学副学長(危機管理・教員評価・学術・
特命担当)。スコッチ・ウイスキーのシン
グルモルトを愛する。

創造は明日と未来を創り、
「材料」では社会生活の土台を
強固にする安心・安全な未来に繋がる。

材料物質科学コース 教授
熊本大学 先進軽金属材料国際研究機構 客員教授

松本洋明

越智勇斗さん（大学院創発科学研究科博士前期課程2年生）

播磨幸紀さん（創造工学部4年生）

2人の研究テーマ：LPBFで造形されたAl複合基の恒温鍛造と組織

金属材料のものの造り、評価、組織はどのようにしてできるのか、 強さ・伸びの仕組みの機構を調査

金属材料と聞くと、鉄、鋼、アルミニウム、銅など思い浮かべる人も多いと思います。これらは、強さ、錆びにくさ、軽さ、電気の通しやすさなど金属材料ならではの特徴があり、特性がいかに発揮できる所で使い分けして使用されています。これからの社会は脱炭素化、省エネルギー、リサイクルなど環境に優しい工業製品が大事になり、金属材料においても省エネルギーで製造できて軽く強い金属が強く望まれています。

最近では香川県産業技術センターと強固な連携体制を構築し、「かがわ次世代ものづくり研究会・3D積層造形分科会」で金属3Dプリンティングの共同研究も実施しております。

この金属3Dプリンティングでは、一般に部品は金属粉末を原料としてレーザもしくは電子ビームを熱源として粉体を局所に溶融・凝固することで任意の形状に造形されます。これまでの加工方法とは異なり、直接的に複雑形状な部品を製造することが可能であり、この10年間で急速に発展したテクノロジーです。私達（松本研究室一同・香川県産業技術センター・宮内さん）は単に複雑な形に造形できるだけでなく、新たな金属材料の組織制御を目指した階層的（ナノレベル～ミリレベル）な複合化・複相化の制御指針を構築しています（新しいテクノロジーで、新しい金属組織を造り込む研究を実施）。



石濱琢也さん

（大学院創発科学研究科博士前期課程1年生）

研究テーマ：航空機エンジン用Ti合金の加工と組織予測

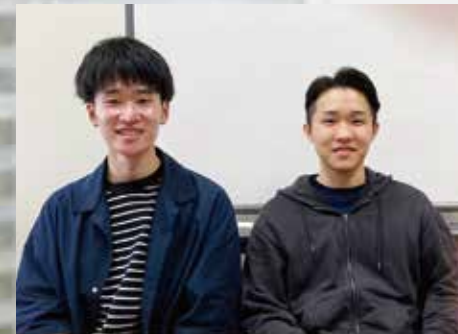
低学年のときは松本先生の授業がなかったため、研究室見学で初めてお話ししました。飛行機がとても好きで、研究にもすごく熱心な先生だと感じました。同時に、研究内容は難しそうだなという印象を受けました。「Step by Step」という言葉をよく口にされており、物事を焦らず順序立てて進めることの大切さを教えてくださいました。感じます。

続きはwebで

都市は創造の
積み重ねでできている

建築・都市環境コース
准教授

長谷川裕修



（左）阿部哲也さん（創造工学部4年生）
研究テーマ：JICAパーソントリップ調査データを用いた
都市内交通に関する国際比較

（右）吾郷泰紀さん（創造工学部4年生）
研究テーマ：生活道路における交通安全に関する研究

詳細はwebで

都市や地域の暮らしを支える 交通に関する研究と教育

交通計画、交通安全、交通行動分析等、研究分野は多岐にわたります。最近ではウェアラブルデバイスを用いた歩行時の視覚的注意の分析や、子どもの交通安全教育にも力を入れています。地域の課題に寄り添いながら、持続可能で安全な交通社会の実現を目指しています。研究室では、交通安全、交通計画、国土管理に関する研究に取り組んでいます。人や街の行動や変化をデータで捉え、安全で持続可能な社会の実現に貢献します。また道路や実験室での実験で、視線や姿勢等の生体計測データを取得したり、AIやARを活用した交通安全教育にも取り組んでいます。

進行中のプロジェクト

「魔の7歳」問題解消に向けたゲーミフィケーション型ハザード知覚訓練の開発

リスクの高い小学校入学前後の児童・生徒を対象とした交通安全教育に、キャラクターメイキングや宝（キャラクタ）探しなどゲーム的な要素を組み入れることで、楽しみながら効果的な教育が可能となるのではないかと研究をしています。

渋滞発生予兆としての追従挙動カオス性検出による
渋滞抑制運動ゲーミフィケーション

高速道路サグ部（下り坂から上り坂へとさしかかるときの凸部）での渋滞対策として、車間を詰めず・安定した速度で走行すると渋滞発生確率が下げられることがわかっています。そのような運転をした場合に高得点が得られるようなゲーム性のある施策を提案したいと考えています。

続きはwebで

土木の道に進んだきっかけは、 高校時代のサッカー部



サッカー部の練習場は河川敷。自分たちが主力の代で、大雨によって2回もゴールポストや道具が流されてしまいました。先輩たちから「数年に一回はある」と聞いていたのですが、2回もあると「これではだめだ、どうにかしないといけない」と思いました。そういうことに取り組めるのが土木だと知って、土木が勉強できる大学に進みました。

ただ、土木を学び始めてすぐに、その河川敷のグラウンドが実は遊水地だったことが分かりました。河川の水が増えても街に水が流れないための遊水地だから、むしろ適切な働き。結果としてゴールポストや道具が流されていただけで、サッカーのグラウンドはおまけ。それで土木へのやる気を失い、留年。

学部4年目の夏休みに時間があって、バイク店の方から「日本縦断って面白いよ」と言われて旅へ。一人で北海道から鹿児島までを旅して、各地の風景や風土を見て、文化に触れて、いろんな方に親切にしてもらいました。人の優しさに触れ、暮らしを支える土木の大切さに改めて気づいてモチベーションが復活。そこから、もっと学びたいと思って大学院への進学も考え、今に至ります。

▼ webに掲載

□ 研究室の教育方針





研究テーマは想定外の災害に対応する 訓練システムを開発・運用

研究によって作成した訓練を実施し、事故や災害に対する適切な判断や行動ができる防災コンピテンシーの養成に取り組んでいます。最新の訓練システムはVRを用いて、訓練者の状況を見ながら常に想定外のシナリオを提示し、災害時の判断や行動をシミュレーションしてもらいます。危機的な状況では、現状や被害を小さく受け取ってしまったり、自分は安全だと考えてしまったりすることで、生き延びる行動

に移せないことがあります。そうした状況を体験してもらうことによって、自分の考え方や行動を理解し、今後の防災に役立ててもらいます。訓練を実施することはもちろん、システムそのもののアップデートも行っており、今後はシステムのAI制御を検討しています。また、現状のシステムを核とし、より簡易的な教育システムをつくらせて地域防災などの入り口となるような段階的なシステム設計も考えています。

創造は、人との交流が
生み出す無限の可能性から始まる

創造工学部副学部長
防災・危機管理コース 教授

井面 仁志

ネクストプログラム※ 「防災士養成プログラム」

講義を受け試験に合格し、実際にボランティアとして実習を終えると防災士(NPO法人日本防災機構)の資格を取ることができます。防災・危機管理コースの学生は授業自体が必須ですが、他学部の学生も受講することができます。そこで防災士の資格を得た学生が、防災士クラブを組織し、実習とは別に防災のボランティア活動をしています。地域の防災訓練への参加や協力と、被災地へのボランティア派遣を行っています。熊本地震や西日本豪雨、能登半島地震など、被災直後のがれき撤去や家財運びだし、炊き出しといったボランティアだけでなく、その後の農業支援やイベント支援など継続的な支援にも力を入れています。香川県の防災訓練や、赤十字病院の防災展示などのサポートや参加も続けています。

※学部の枠を超えて、主体的に学習する自由参加型の特別教育プログラム



西田有宇さん
(大学院創発科学研究科博士前期課程2年生)

研究テーマ: レジリエンスによる避難行動分析、
避難信頼性向上のためのVR避難訓練システムの開発

防災士の授業やボランティア活動で井面先生に教わりました。何気ない会話をしているときに、指摘の仕方が他の先生と違って、先生の研究室で学んでみたいと思いました。先生の指摘は、学生への質問形式が多く、課題の見つけ方から、考察、行動と自主性が鍛えられます。学生の自主性による自己成長を大事にする研究室です。研究室の隣に先生がいますので、分からないことがあればすぐに聞けるのが助かります。

続きはwebで



創造は、
踏み越えた失敗の数だけ
広がるモノ

機械システムコース 講師

土谷 圭央

キーワードは人間拡張、計測工学

苫小牧工業高等専門学校(北海道)の准教授を経て、2024年4月から香川大学の教員を務めています。「人に関わる」研究を軸に、人の負担に着目し、バイオメカニクス、計測工学、ロボティクス等さまざまな工学分野の知識を用いた研究を進めています。最近注力しているのは、動作計測による主観(自分判断)感覚の定量的(数値化)評価になります。例えば、同じ作業を行っても「疲れ」は人によって違い、大変疲れた、まあまあ疲れた等個々の感覚的な表現になっています。このような感覚を、動きや身体特徴から計測・推定する技術、更にはそれらを補助するシステムの開発を行っています。



石田大貴さん(大学院創発科学研究科博士前期課程1年生)

研究テーマ: 人体計測に基づいた動作解析

高専時代にお世話になっていたこともあり、大学院でも土谷先生のもとで研究を続けています。ゼミの雰囲気はとても良く感じます。また、サークルの人たちがよく来ることもあり和気藹々としています。

先生はいろんな話をしてくれますし、ノリが良くとても面白い先生だなという印象です。先生の口癖としては「バグってる」。また「荒唐無稽なアイデアでも、とりあえず出す」という言葉が印象に残っています。

続きはwebで



香川大学創造工学部 競技ロボット研究会 (香創研)



2024年10月に高専出身の土谷先生のもとに高専からの編入生が集まって発足した競技ロボコンのチームです。学生自らが地元企業へと赴き、活動内容と理念を説明します。協賛をいただいたスポンサー費用で運営を行い、2024年度は結成から半年でCoRE(Championship of Robotics Engineers)という大会に出場し、競技準優勝という成績を収めました。2025年度も参加予定です。

土田唯人さん(キャプテン・創造工学部4年生)

研究室HPはこちら ▶



学び続け 考え抜く。
そこから創造は生まれる！

人工知能・通信ネットワークコース 教授

藤本 憲 市



人工知能システムとともに 輝く高度情報化社会を目指す

数学を工学に応用する数理工学、さまざまなものを巧みに操るための制御工学、人工知能の基礎となる機械学習等の知見を利用して、横断的な分野の研究に取り組んでいます。特に数理工学の応用範囲はかなり広く、その研究成果は、私たちの社会や暮らしを大きく変えることのできる可能性を秘めています。

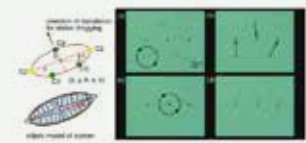
断層画像再構成のための効率的計算法の開発

断層画像再構成問題は、逆問題とよばれる数学的な問題として定式化することができます。常微分・常差分方程式や機械学習システムを用いて、高速かつ高画質の断層画像を再構成するための方法を研究しています。



光ピンセットによる微小物操作と画像計測

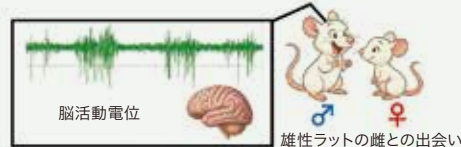
顕微鏡下の微小物をレーザー光で操作する光ピンセット技術と画像再構成技術を用いて、顕微鏡下で撮影した投影像から微小物の外観や内部構造を計測するための研究を行っています。



顕微鏡下における微小物の
光ピンセット操作

動物の記憶メカニズム解明に向けた脳波解析

記憶を司る海馬から測定した脳活動電位を数理的手法や機械学習システムを用いて解析し、ラットが経験した情動性エピソードとの関連性を研究しています。
(山口大学との共同研究)

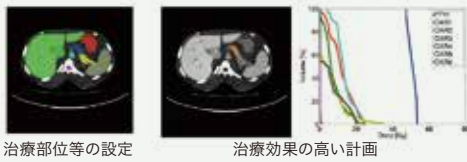


脳活動電位

雄性ラットの雌との出会い

放射線治療計画システムの改良

放射線治療計画問題を連立不等式の問題に置き換え、常微分・常差分方程式や機械学習システムを用いて、高い治療効果が期待できる治療計画を立案可能なシステムについて研究しています。



治療部位等の設定

治療効果の高い計画

土壌内の放射能分布推定法の開発

土壌内の放射能分布推定問題を逆問題に置き換え、数理的手法や機械学習システムを利用した推定法について研究しています。
(東京都立大学及び徳島大学との共同研究)



測定データ

放射能分布(推定)

石原裕太さん(大学院創発科学研究科博士後期課程1年生)

研究テーマ:機械学習や数理工学などの手法を用いた脳波解析

- ・令和6年度香川大学大学院創発科学研究科特別賞(2025.3.24)
- ・電気学会優秀論文発表賞(2024.10.29)
- ・令和4年度香川大学創造工学部長賞(2023.3.24)
- ・令和4年度電気学会電子情報通信学会情報処理学会四国支部奨励賞(2023.3.24)



藤本先生の授業を受講し、丁寧で優しい先生が第一印象です。第一印象は今も変わりません。ゼミなどでご指導いただく中で、非常に研究に対して情熱的な先生と思います。先生に言われた「研究が楽しい」という言葉が印象に残っています。今後、研究者を目指す上でも、この言葉を大切に、楽しみながら研究に取り組みたいと考えています。

ゼミでは明るい雰囲気の中、質問や意見交換が行われています。気軽に発言がしやすく、いい雰囲気だと思っています。

続きはwebで

創造する技術、 守る未来

情報コース 准教授

橋本正樹

- ・電気事業法関係審査会(経済産業省)委員
- ・サイバーセキュリティ教育推進センターアドバイザー(国立高等専門学校機構)
- ・サイバーセキュリティ産学連携推進協議会幹事(日本ネットワークセキュリティ協会)
- ・情報処理学会 コンピュータセキュリティ研究会(CSEC) 専門委員

人々が安心して情報社会で暮らせる技術の研究開発

さまざまな情報科学の基礎技術を組み合わせて、詐欺サイト検出、マルウェア(悪意のあるソフトウェア)分析、SNS上の情報操作検出など、現代社会の身近な脅威に対する防御技術を開発しています。

情報セキュリティは単なる技術的な問題ではありません。問題の多くは人間の悪意に起因します。技術的な対策に、人間の心理や行動を理解することが重要です。そのため、コンピュータサイエンスや工学といった技術的な分野だけでなく、心理学、社会学、法学、経済学などの社会科学分野の知見を必要とする総合的な学問分野です。

私の研究事例として、

01. 偽サイトの検出技術に関する研究*

インターネット上に存在するあらゆる違法有害情報を迅速に検知し、対策を講じることを目指します。現時点では、効率的なクロウラ(ウェブサイトから必要な情報を収集する自動プログラム)と機械学習により、偽ショッピングサイトの自動的検出システムは開発済みです。今後はSNS上の偽情報やフィッシングサイトなども対象とする拡張を行います。

02. 偽情報の検出技術に関する研究

日本における偽情報拡散の実態解明を目指します。そのために、日本におけるソーシャルボット(SNS上で自動的にコミュニケーションを行うプログラム)について、特に拡散速度が速いとされる政治関連の話題においてどの程度の件数・割合を占めているかを明らかにします。

03. システム内活動の紐付けと可視化

プロセスの親子関係や実行履歴、ファイルの操作履歴などから一連の活動をリンク付けし、事前に悪性活動を定義しておくことで、複雑な攻撃の機械的な判定を可能とします。

詳しくは、個人ホームページをご覧ください。

研究室全体で関わる

SETOKU

サイバー防犯ボランティア
全学サークル



SETOKUとは「Security Team Of Kagawa University」の略称。2021年11月に結成されました。香川県警察や日本サイバー犯罪対策センター、トレンドマイクロ株式会社さんなどと協力して活動を行っています。

【関連情報】
香川県警察サイバー防犯ボランティアに委嘱(2025.5.9)



+ 協力研究員の皆さん

神奈川県警察 堺啓介さん
トレンドマイクロ株式会社 嶋村誠さん
千葉県警察 竹重耕介さん
トレンドマイクロ株式会社 松ヶ谷新吾さん

唐澤琴乃さん
(創造工学部4年生)

松原潤さん
(創造工学部4年生)

庭瀬諒さん
(創造工学部4年生)

蓮井宏規さん
(創造工学部4年生)

(創造工学部4年生)

橋本正樹

- ・電気事業法関係審査会(経済産業省)委員
- ・サイバーセキュリティ教育推進センターアドバイザー(国立高等専門学校機構)
- ・サイバーセキュリティ産学連携推進協議会幹事(日本ネットワークセキュリティ協会)
- ・情報処理学会 コンピュータセキュリティ研究会(CSEC) 専門委員

人々が安心して情報社会で暮らせる技術の研究開発

さまざまな情報科学の基礎技術を組み合わせて、詐欺サイト検出、マルウェア(悪意のあるソフトウェア)分析、SNS上の情報操作検出など、現代社会の身近な脅威に対する防御技術を開発しています。

情報セキュリティは単なる技術的な問題ではありません。問題の多くは人間の悪意に起因します。技術的な対策に、人間の心理や行動を理解することが重要です。そのため、コンピュータサイエンスや工学といった技術的な分野だけでなく、心理学、社会学、法学、経済学などの社会科学分野の知見を必要とする総合的な学問分野です。

私の研究事例として、

01. 偽サイトの検出技術に関する研究*

インターネット上に存在するあらゆる違法有害情報を迅速に検知し、対策を講じることを目指します。現時点では、効率的なクロウラ(ウェブサイトから必要な情報を収集する自動プログラム)と機械学習により、偽ショッピングサイトの自動的検出システムは開発済みです。今後はSNS上の偽情報やフィッシングサイトなども対象とする拡張を行います。

02. 偽情報の検出技術に関する研究

日本における偽情報拡散の実態解明を目指します。そのために、日本におけるソーシャルボット(SNS上で自動的にコミュニケーションを行うプログラム)について、特に拡散速度が速いとされる政治関連の話題においてどの程度の件数・割合を占めているかを明らかにします。

03. システム内活動の紐付けと可視化

プロセスの親子関係や実行履歴、ファイルの操作履歴などから一連の活動をリンク付けし、事前に悪性活動を定義しておくことで、複雑な攻撃の機械的な判定を可能とします。

詳しくは、個人ホームページをご覧ください。



※SAGICHECK



ゼミの様子

【関連情報】
警察研究論文・最優秀論文賞を受賞



HASHIMOTO LABRATORY





作品「瀬戸芸2019 蛙の池の今昔物語」



瀬戸内海分校プロジェクト 演習の様子



ぐんだら家 瀬戸芸作家トークイベント



香川大学広報誌「かがアト41号」(2025年2月発刊)



学部案内2026(2025年6月発刊)

馬場夏希さん(創造工学部4年生)

研究テーマ:データビジュアライゼーションを用いた香川県沿岸部の海洋ごみ分布提示による県民の意識調査

柴田先生は私たち学生にとってもフランクに接して下さいますし、いい意味で先生っぽくない人だなと思いました。学生自身もすべてを教えてもらうというよりは、先生の行動や考えの中からそれぞれが吸収し、いかに自分の糧にできるのかということを意識しながら活動しています。興味があることはとりあえず行ってみる、やってみるということを先生から学びました。得た知識がこの先どんな形で役立つかはわからないので、分野関係なく様々な知識を吸収し行動し続けるということを日々心掛けています。

Arts-Based Social Design Lab.

洞察や共感フェーズを重視した社会デザイン

アーティストの卓越した洞察力を参考に豊かな感性と創造力で社会課題*の解決に向けた新たな社会価値を創出する統合的ソリューションデザインを行う研究室です。

※社会課題:戦後近代化～現在までに社会から取り残された瀬戸内海の離島および近隣の社会的マイノリティなどが対象

問題の洗い出し (探索)	問題の絞り込み (定義)	解決策の洗い出し (展開)	解決策の絞り込み (提供)
-----------------	-----------------	------------------	------------------

芸術未来研究場せとうち

東京藝術大学と香川大学のさまざまな研究領域が連携し、20以上のプロジェクトが進行しています。

以下、2025年度も継続中のプロジェクトです。

- ▶ 瀬戸内海分校プロジェクト〈01〉
- ▶ 東かがわ ぐんだらけ〈02〉
- ▶ コジバシプレイグラウンド(男木島)
- ▶ ShinAiKan Merry Go Round(豊島)〈03〉
- ▶ 大島未来構想プロジェクト
- ▶ 瀬戸内海資源循環プロジェクト
- ▶ 万博アートする里海〈04〉

〈01〉



〈02〉



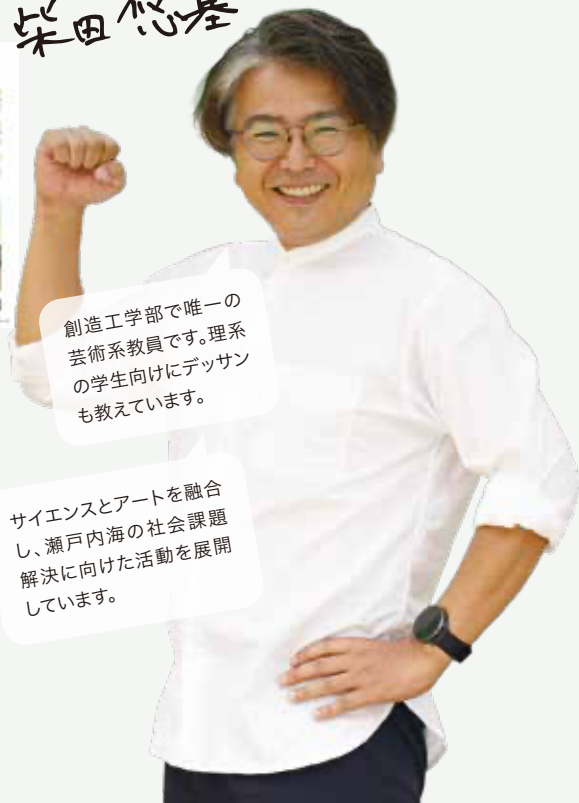
〈03〉



〈04〉



創造は
楽しむ心から始まる冒険!!
造形・メディアデザインコース 講師
柴田悠基



創造工学部で唯一の芸術系教員です。理系の学生向けにデザインも教えています。

サイエンスとアートを融合し、瀬戸内海の社会課題解決に向けた活動を展開しています。

創刊にあたって

このたび香川大学創造工学部では、新しい学部紹介冊子を創刊することとなりました。これまでの学部案内は各コースの概要や入試、進路紹介が中心で、オフィシャルで総括的な印象にとどまっていた。本誌ではその枠を超え、教員一人ひとりの研究や学生たちの活動にクローズアップして、より詳しく紹介していきます。日々の学びや挑戦の空気を誌面に映し出すことで、学部をより身近に感じていただける内容としました。

今回の創刊は、ちょうど学部長交代という節目にあたります。新旧学部長の対談を冒頭に据えたのも、その象徴的な意味を込めたものです。これまでの歩みを振り返りながら、新たなビジョンに向かって歩む学部の姿を、読者の皆さまに共有できればと願っています。

本誌は毎年9月と3月の年2回刊行を予定しています。今後は学生や教職員、各コースが積極的にこのメディアを活用し、研究成果や活動記録、さらには日々の気づきや学びまでも自由に発信できる場へと育てていきたいと思っています。今回取材にご協力いただいた先生方には「創造」という言葉をキーワードに、一言のコピーを寄せていただきました。それぞれの個性や想いが表れた言葉は、きっと読者の心に響くと思います。

そして最後に、本誌は企業の皆さまから広告掲載という形で温かなご支援を賜りました。本誌の充実した内容と創刊の実現は、皆さまのご協力あってこそです。ここに改めて厚く御礼申し上げます。今後の継続刊行とさらなる発展に、どうぞご期待ください。

創造工学部広報室長 造形・メディアデザインコース教授 大場晴夫

パートナー企業

本誌への賛同と協賛をしてくださった企業様です。

総合建設コンサルタント
第一株式会社

第一コンサルタンツ

人を支えるインフラの最前線へ

道路・橋梁・トンネルなどの社会インフラにおいて、計画・調査・設計・維持管理まで、確かな未来を創造する総合建設コンサルティング会社です。

〒781-5105 高知県高知市介良甲828-1 TEL(088)821・7770 FAX(088)821・7771

海風とかなえるカーボンニュートラル

1929年の創業から1世紀にわたり

海とともに歴史を紡いできた誇りを胸に、

「洋上風力発電」への取り組みをさらに加速し、

社会課題の解決や豊かな未来づくりに貢献します。



東洋建設株式会社 四国支店

〒760-0014 香川県高松市昭和町1丁目3-5

<https://www.toyo-const.co.jp>



